

おサイフケータイとコンビニから これからの経済・消費生活を探ってみよう —情報社会の身近な金融と消費者の自立—

(総授業時数：9時間)

実施学年、教科等

第1学年～第3学年 総合的な学習の時間

単元の目標

- (1) ITの進展に伴いデジタル化された金融と消費のネットワーク社会を認識できるようにする。
- (2) 電子マネー・電子決済などの「見えないお金」に関心を持ち、現代社会の「お金」について理解できるようにする。IT化によって身近になっていく金融を認識させ、主体的に「お金を運用する」必要があることを理解できるようにする。
- (3) 消費者の自己責任、「消費者の自立と権利」について理解させるとともに、情報社会の進展と販売法の多様化に伴う新たな消費者問題について認識させ、自立した消費者として行動できるようにする。
- (4) 課題の発表に際して、メンバーと協力して発表方法を創意工夫し、分かりやすいプレゼンテーションを行うことができるようにする。

学習の評価

- (1) 課題探究学習で、デジタル化された金融と消費のネットワーク社会に関心を持ち、自ら課題を見だし、意欲的に取り組んでいる。また、体験的な学習活動を通じて、情報リテラシーを培っている。
(ワークシート・グループ発表)
- (2) 電子マネー・電子決済や金融商品などについて、体験的な学習活動を通じて研究し、「お金」の役割や金融システムについて思考を深めている。
(グループ発表)
また、リアルタイムの金融市場にアクセスして、情報社会での金融商品の多様化を理解するとともに、基本的な金融リテラシーを身に付けている。
(グループ発表・ワークシート)
- (3) 実践的な学習活動を通じて、現代社会における金融の特徴と消費者問題を調査・研究し、自立した消費者として責任をもって行動するために必要な基礎的かつ基本的な知識・技術を身に付けている。(ワークシート)
- (4) 課題の発表に際して、メンバーと協力して、発表方法を創意工夫し、分かりやすく意欲的にプレゼンテーションを行っている。
(グループ発表)

展開の特色

本単元では金融学習の視点として、おサイフケータイとコンビニエンスストアを通して、身近になる金融と消費者の自立という2つの観点から展開してみたい。なお、公民・現代社会、政治・経済、家庭の各教科での学習の発展として位置付けることにより、より理解が深まると考えられる(詳細は、「教材・資料等」を参照)。

IT化によって金融は身近なものへと変化し、誰もが金融について学ぶ必要性が高まっている。また、電子決済の普及や、企業などのポイント還元等の共有化などによって、消費生活の中での「お金」の役割にも変化が生じている。今後、近未来を想定することが難しい現代において、各教科で学んだ知識に基づき、現在の金融や消費生活の課題を自ら見つけ、それを探究し考え、主体的に判断し解決していく資質や能力を身に付けることを目指して展開する。また、消費者の自己責任も求められる時代の中で、消費者の自立とは何か、消費者の権利とは何かの理解を深めていく。

「学校における金融教育の年齢層別目標」の該当項目

A-ア・イ、B-ア、C-ア・イ

学習内容のキーワード

カード社会、携帯電話、インターネット、電子マネー・電子決済、コンビニ支払い・引き出し、金融商品、消費者トラブル、多重債務、消費者の権利と義務

●指導計画

時数	ねらい	学習内容・学習活動	◆金融教育の視点	★指導上の留意点	その他(教科等との関連)				
1	「どこまでお金が考えてみよう」 カード社会を通じて、お金の役割を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ●クレジットカードの歴史、種類、機能とその仕組みを知る。 ＜グループ活動＞ ・プラスチックマネーと呼ばれるカードの資料からそれぞれの特徴をまとめる。 ・どのカードまでが「お金」なのかを一人ひとり考え、それぞれの意見を発表して、グループで話し合う。 ・それぞれのグループの考えを発表する。 ●「お金」の特徴としての流動性を理解した上で、マネーサプライの種類を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆カードの特徴を理解させるとともに、「お金」とは何を意味するのかを考えさせる。 ◆クレジットカードの仕組みと使用にあたっての留意点に気付かせる。 ◆カード社会、キャッシュレス社会の現代において、どこまで「お金」なのかを考えることを通じて、お金の役割(交換手段、蓄財の手段)を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ★教科学習で、マネーサプライやクレジットカードに関して十分に学習している場合は割愛し、次の時間の導入として手短かに復習してもよい。 ★各種のカードの資料を準備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公民・現代社会の「現代の経済社会と経済活動の在り方」、政治・経済の「現代の経済」「現代社会の諸課題」、家庭総合の「生活における経済の計画」 				
2 3 4	「現代のお金とは何かを探ってみよう」 人の営みに必要なお金の管理・運用について、現代社会の特徴を調べ、お金とは何かを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ●高校生にとって身近なコンビニエンスストア、量販店、携帯電話、インターネットで流通している「お金」について、課題探究型学習を行う。ネットショッピングだけでなく日常生活にも急速に広がっている電子マネー・電子決済について、身近な入り口から探究する。現代社会における「お金」とは何かを考えるとともに、お金にかかわる新たなシステムやセキュリティについても理解を深める。 ＜グループ活動＞ ・現代の「お金」のテーマを選択する。 <table border="1" data-bbox="578 940 1350 1144"> <thead> <tr> <th>切り口</th> <th>テーマ例(詳細は後述)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>携帯電話、インターネットなどの利用形態、決済方法、ポイントカードや地域通貨など、生徒が疑問に思っている切り口からテーマを決めていく。</td> <td>「コンビニ編」 「ネットショッピング編」 「電子マネー・電子決済編」 「地域通貨編」 「企業通貨編」</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマに沿った資料を新聞や雑誌、パンフレット、HPから収集し、その特徴(仕組み、利点、利用する際の問題点、セキュリティなど)をまとめる。発表方法を工夫し、準備する(ポスター発表、パワーポイント、冊子など)。 ・グループごとに発表して、利用方法の違いや注意点などを比較検討する。 ●ウェブマネーや電子マネー、第二の通貨など現代社会に流通している「お金」を、どこまで「お金」と捉えるのか、思考を深める。 	切り口	テーマ例(詳細は後述)	携帯電話、インターネットなどの利用形態、決済方法、ポイントカードや地域通貨など、生徒が疑問に思っている切り口からテーマを決めていく。	「コンビニ編」 「ネットショッピング編」 「電子マネー・電子決済編」 「地域通貨編」 「企業通貨編」	<ul style="list-style-type: none"> ◆高校生の経済活動において、「お金」とは現金とプリペイドカードなどが主流であろう。しかし、インターネットを利用して、生産者と消費者が双方向で関係性をもった商品の開発と販売、ネットオークションを利用した売買など、これまでにない経済活動が進展している。そのような変化を支える仕組みのひとつは、インターネットや流通店舗で現金を取り扱うことなしに売買を可能にする電子マネー・電子決済である。ここでは、進化し続ける電子マネー・電子決済の仕組みや機能について、インターネットやコンビニを通じて生きた社会から学ぶ。 ◆新たな仕組みの種類とその特徴だけでなく、安全性についても注意を向ける。 ◆発表を通して、キャッシュレス化は、電子マネー・電子決済へとシフトしていることについての理解を深める。また、自ら探究し、考え、行動していくことの重要性を認識する。 	<ul style="list-style-type: none"> ★高校生の9割以上が携帯電話を保有し、多くの高校生がコンビニエンスストアを日々利用し、中にはインターネットを通じてコンサートチケットや本などを注文しコンビニエンスストアで購入している生徒もいる。高校生にとって日常である場に、まだ高校生の多くが利用していない電子マネー・電子決済は見えない形で広がっていることへの気付きを促し、自ら課題を見だし、積極的に探究するように配慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公民・現代社会の「現代の経済社会と経済活動の在り方」、政治・経済の「現代の経済」「現代社会の諸課題」、家庭総合の「生活における経済の計画」
切り口	テーマ例(詳細は後述)								
携帯電話、インターネットなどの利用形態、決済方法、ポイントカードや地域通貨など、生徒が疑問に思っている切り口からテーマを決めていく。	「コンビニ編」 「ネットショッピング編」 「電子マネー・電子決済編」 「地域通貨編」 「企業通貨編」								
5	「コンビニで何を支払うことができるのか調べてみよう」 コンビニで商品購入以外に動く「お金」を通じて、国民経済の循環を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ●コンビニで支払う「お金」と引き出す「お金」から、国民経済を理解する。 ＜個別調べ学習＞ ・各種コンビニのHPにアクセスし、支払えるお金と引き出せるお金は何かを調べる(モノの購入代金、サービスの購入代金、公共料金や年金など各種保険料、住民税や自動車税などを支払うことができる。コンビニATMで、銀行預金や郵貯から引き出すことができる)。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆コンビニでの買い物と社会保険料の支払いや税金の支払い、預貯金などから、国民経済の循環の一端を実感させ、経済主体の一員であることに気付かせる。 ◆個人情報の問題にも注意を向けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ★コンビニATMでお金を引き出し、カードで買い物をした場合、POSと連動して、自分の消費行動がマーケティングデータとなることも理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・上記に同じ 				
6	「お金を預ける・増やすにはどうするのがインターネットで調べてみよう」 金融商品にはどのようなものがあるかを知る。	<ul style="list-style-type: none"> ●IT化によって、誰もが気軽にアクセスできるようになった金融商品には、どのような商品があり、どのような仕組みの中で購入できるのかを知る。まず、預貯金商品を例に、金融商品を選ぶポイントを学ぶ。 ＜課題探究学習＞ ・グループ学習：グループごとに、代表的な金融商品の資料に基づき、商品の特徴や判断基準、リスクなどをまとめ、発表する。 ・個人追究学習：各グループの発表を聞きながら、ワークシートに金融商品の特徴を記入し、理解する。 ●目的に応じて金融商品を選択することを学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆IT技術の進展により、消費者にとって品物の購入のチャンスが広がるだけでなく、パソコンや携帯電話、ICカードを通じて、金融と意識せずに金融サービスの利便性を活用していることになる。お金にかかわる新たなシステムや商品を、情報の洪水の中から選択する知識・技術を身に付け、セキュリティと個人情報にも配慮し、主体的に「お金を運用する」こと、つまり「金融リテラシー」を学ぶことが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ★預貯金を例に安全性・流動性・収益性の性格、リスクとリターンを理解させる。 ★金融商品の資料、ワークシートを準備する。 ★「株式、信託、保険、債券、外貨建て」などにグループを分けて、その特徴をまとめさせ、発表させる。 ★金融商品購入の際、商品情報を積極的に収集し、商品の内容を十分に理解することが重要であることを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公民・現代社会の「現代の経済社会と経済活動の在り方」、政治・経済の「現代の経済」 				

1 金融教育のねらいと基本的性格

2 金融教育の目的と方法

3 金融教育を支援する関係機関等の活動

4 金融教育の指導計画の作成と実施に向けて

5 小学校における金融教育

6 中学校における金融教育

7 高等学校における金融教育

資料

1 金融教育のねらいと基本的性格

2 金融教育の目的と方法

3 金融教育を支援する関係機関等の活動

4 金融教育の指導計画の作成と実施に向けて

5 小学校における金融教育

6 中学校における金融教育

7 高等学校における金融教育

資料

時数	ねらい	学習内容・学習活動	◆金融教育の視点	★指導上の留意点	その他(教科等との関連)
7	<p>「電子決済でのお金のトラブルを探ってみよう」</p> <p>金融に関するトラブルの理解を深め、消費者として求められている行動を知る。</p>	<p>●電子決済によって選択の幅が広がったが、それに伴って新たに生じている「お金」に絡む消費者トラブルを知り、何故起こるのか、そしてどのような解決方法があるのかを考える。また、消費者としてどのように行動したらよいのかを、自己責任とは何かを理解する。</p> <p><事例研究></p> <ul style="list-style-type: none"> お金のトラブルに巻き込まれた具体的な事例から学ぶ。 例—ネットショッピングでの電子決済のトラブル 変額保険などのトラブルなど <p><個人追究学習></p> <ul style="list-style-type: none"> 金融商品に関するトラブルの事例から、どうしたらトラブルを回避できたか考える。 購入後のトラブル解決策として、消費者契約法により契約を取り消すことができる場合を探る。 	<p>◆金融に関するトラブルが多発している現状と課題に関心をもたせ、消費者保護の施策を理解させる。また、消費者として主体的に判断し行動することが求められていることを理解させる。</p> <p>◆「金融商品のトラブル」と法律 金融商品販売法は、顧客保護のために金融商品販売業者に説明義務を課したものであることを理解させる。</p>	<p>★金融商品に関する知識が不十分である場合、金融取引をめぐるトラブルが生じやすいことに気付かせる。</p> <p>★インターネットショッピングでのトラブル回避に、Pay-easy マークやジオトラストマークが有用であることについて理解させる。</p>	<p>・事例は、国民生活センターから入手する。</p>
8	<p>「多重債務に陥らないために、問題点を考えてみよう」</p> <p>お金を借りるということを理解し、多重債務に陥らないためにどう対処するのかを知る。</p>	<p>●多重債務に陥ったケースから、その解決方法と、陥らないための対処方法を学ぶ。</p> <p><グループ学習></p> <ul style="list-style-type: none"> 事例に基づき、ワークシート上で多重債務の軌跡を辿る。「借りては返す」との繰り返しを、模型を使って、ロールプレイする。 解決方法の資料から、どの方法を選択するか話し合う。 	<p>◆家計管理や金融トラブルの解決に向けて、生活情報を収集し取捨選択して活用し、様々な人と話し合い、共同で行動することの重要性を認識させる。</p> <p>◆信用、金融機関とノンバンク、利息の計算方法を理解させる。</p>	<p>★多重債務の事例の資料とワークシートを準備する。</p> <p>★ヤミ金融の雪だるま式に膨らむケースを提示する模型を準備する。</p>	<p>・家庭総合で多重債務を十分に学習している場合は、割愛。</p>
9	<p>「消費者の自立を目指して、調べてみよう」</p>	<p>●消費者の権利と義務を理解する。 消費者基本法の改正により、消費者の自己責任も求められる時代となり、消費者として主体的な判断力と、消費者の権利を行使するなど積極的な行動をとる力を培うことが課題となっている。そこで、生活情報を消費行動に活かすことができることを理解する。また、消費者として、行政や企業に意見や情報を発信することも消費者の義務であることを認識する。</p> <p><個人追究学習></p> <ul style="list-style-type: none"> 国民生活センターのHPの消費者相談データベースなどを通じて、消費者トラブルの最新情報にアクセスする。 「消費者トラブルメール箱」を利用すると、自ら情報を発信できることを知る。 インターネットを通じて、クーリング・オフ制度の仕組みや利用方法を調べ、ワークシートをまとめる。 	<p>◆HPで、地域の相談窓口の確認、クーリング・オフの記入例や手続き方法を知る経験をさせる。</p> <p>◆インターネットは、消費者トラブルなどの情報を入手できるだけでなく、消費者被害防止の情報を発信できることを理解させる。</p> <p>◆情報の入手や発信が容易であり、同時に氾濫する情報におぼれる現代において、情報の発信源を確かめて、その特徴を知って、情報の質を見分ける、読み取る力、情報リテラシーを身に付けさせる。</p>	<p>★商品やサービスに不満・被害があったという人の中で、相談窓口申し出る割合は3～4%に過ぎないという調査結果がある。トラブルを一人で抱え込まないで、できるだけ早く消費生活センターに電話をかけて相談することが、解決への第一歩。その際、トラブルに至った経緯を書いてまとめておくことや、契約書やメモなど関係する資料も手元に用意しておくことなども紹介する。</p>	<p>・公民・現代社会の「現代の経済社会と経済活動の在り方」、政治・経済の「現代の経済」「現代社会の諸課題」、家庭総合の「消費者の権利と責任」</p>

1 金融教育のねらいと基本的性格
2 金融教育の目標と方法
3 金融教育を支援する関係機関等の活動
4 金融教育の指導計画の作成と実施に向けて
5 小学校における金融教育
6 中学校における金融教育
7 高等学校における金融教育

1 金融教育のねらいと基本的性格
2 金融教育の目標と方法
3 金融教育を支援する関係機関等の活動
4 金融教育の指導計画の作成と実施に向けて
5 小学校における金融教育
6 中学校における金融教育
7 高等学校における金融教育

資料

資料

1 金融教育のねらいと基本的性格
2 金融教育の目標と方法
3 金融教育を支援する関係機関等の活動
4 金融教育の指導計画の作成と実施に向けて
5 小学校における金融教育
6 中学校における金融教育
7 高等学校における金融教育

1 金融教育のねらいと基本的性格
2 金融教育の目標と方法
3 金融教育を支援する関係機関等の活動
4 金融教育の指導計画の作成と実施に向けて
5 小学校における金融教育
6 中学校における金融教育
7 高等学校における金融教育

指導のポイント

○身近になる金融

IT（情報技術）の進展、国際化、規制緩和や制度改革などに伴う社会構造の変動の中で、人々の金融・消費生活は急速に変化している。例えば、電子マネー・電子決済が普及し、現金を使わずに洋服を買い、インターネットを通じて旅行保険を申し込み、住宅ローンを組み、株式を運用する。おサイフケータイで銀行口座の残高を確認し振り込み、コンビニエンスストアのATMで預貯金を下ろし株式を発注する。このように、情報社会の進展によって、金融サービスはいつでもどこでも利用でき、敷居の高いものでなくなり、また人々の生活に知らぬ間に入り込んでいる時代となった。一方、情報社会の進展は、人々のライフスタイルの多様化、販売方法の多様化に拍車をかけ、契約や金融サービスに関する新たな消費者問題を生み出し、複雑化、多様化している。

そこで、現代社会での「お金とは何か」ということを理解した上で、金融を捉えていく。携帯電話やインターネット、コンビニエンスストアを始めとする流通店舗での電子マネー・電子決済や、利用が急増しているポイントやマイレージといった企業間での提携によって交換可能な「企業通貨」などについて仕組みを調べ、クレジットカードの支払いをも含めた「見えないお金」への理解を深めていく。

また、金融商品は、IT化によって、誰もが気軽にアクセスできるようになり、身近な商品となりつつある。一方、人々のニーズに応じて、付加価値のある金融商品が開発され、多様化・複雑化している。このような金融を学校教育において学ぶことは、「お金を運用する」とことと併せて「金融リテラシー」を学ぶ機会として位置付けて展開することが重要である。

○教師の支援

ITの進展により、おサイフケータイやパソコンなどのハードも利用できるソフトも、両面とも飛躍的に進化し続けている。ドッグイヤーの速さで変化する現代社会に晒されながら高校生は生活し、卒業後は市場経済の中に飛び出すこととなる。一方、教師も同じようにその激変する社会の中で生活しているため、変化や最新の情報・技術をすべて把握することは困難なことである。教師が最新の知識を教えるのではなく、生徒をリアルタイムの社会へ導き、新たな視点から社会や生活を捉え、課題を見だし、見直していくことや実践的に体験させることに意義がある。本実践例は、高校生にとって身近な携帯電話やコンビニエンスストアを入り口として、金融や消費生活に対して、多様な視点からの気づきを促し、自らがどのようにかわり、考え生きていくかということ学ぶことがねらいである。それゆえ、教師は大枠を示し、生徒の学習を支援することが重要となってくる。

●教材・資料等（授業で用いる教材や資料、ワークシート等）

(注) 生徒作品。

1 金融教育のねらいと
基本的性格

2 金融教育の
目標と方法

3 金融教育を支援する
関係機関等の活動

4 金融教育の指導計画の
作成と実施に向けて

5 小学校における
金融教育

6 中学校における
金融教育

7 高等学校における
金融教育

資料

いろいろな電子マネー・電子決済

eL I O

eLIOマークのついたクレジットカード

eLIO ID発行

✕ インターネットショッピングで
カード番号・暗証番号の入力不要

7

いろいろな電子マネー・電子決済

デビットカード

口座から引き出す手間を省く

✕ 休日や夜間のATM手数料不要

即座に自分の口座から代金を支払える

使いすぎて支払いに困ることもナシ

8

いろいろな電子マネー・電子決済

Pay-easy

公共料金や税金などを外出せずに払う

✕ 休日や夜間のATM手数料

即座に自分の口座から代金を支払える

使いすぎて支払いに困ることもナシ

9

いろいろな電子マネー・電子決済

ケータイクレジット

ケータイ+クレジットカード機能

✕ 事前のチャージ・支払い回数・サイン不要

コンビニやスーパーでスピーディーに

10

利用する上で注意したい点

- ✧ 盗難・紛失に注意し、そうなった場合どう対処できるかを事前に確かめておく。
- ✧ クレジットカード類は使いすぎに注意する。
- ✧ 利用控を保管しておき、明細書と照らし合わせて、確認する。
⇒覚えのない引き落としがないようにする。

11

調べてみて・・・

- * ポイントって商店街のシールや金券に似ている・・・でも、企業通貨のすごいところは、ネットワークでつながっているところ！！
- * 電子マネー・電子決済は、まだまだ進化しそう・・・よく調べてから利用しないと大変そう！

ポイントと電子マネー
新しいお金の発見!!
便利だなあ♪

12